

課題名：次世代を産み育てる新しい社会システムの構想：フランスと日本の社会セクター調査

氏名：船橋恵子

機関名：静岡大学

1. 研究の背景

次世代を産み育てることは活力ある社会の基礎であり、少子化、女性の能力潜在化、男性の長時間労働、および格差の問題を克服する新しい社会システムを構想することは、我が国のみならず、世界的な課題になっている。

「政府」を中心とする社会民主主義的な社会政策モデルか、「市場」を活用する自由主義的な社会政策モデルか、という枠組をこえて、「社会セクター」を形成していく「第三の道」モデルが求められている。

フランスは、着実な出生率の回復、再分配による子どもの貧困縮小で知られているが、その背景には、1901年に制定されたアソシエーション法に基づく市民活動の歴史があり、全国家族団体連合会(UNAF)というユニークな社会セクターがある。日本では、1998年によりやくNPO法が制定され、新しい市民活動が始まったところである。

2. 研究の目標

フランスの家族政策の形成に関してアドボカシーとサービスの提供を行っている社会セクターについて詳細に調査し、日本の家族政策に関わる社会セクターと比較することにより、「第三の道」モデルを理論的・実証的に明らかにする。

3. 研究の特色

第一に、従来の社会セクター研究は、アメリカ中心であったが、本研究はフランスの社会セクターに焦点を当て、福祉レジーム論(G.E.アンデルセン)において同じ保守主義レジームに分類される日本とフランスとの比較を行う点に特色がある。

第二に、統計的手法や制度論的研究ではなく、社会学的現地調査の方法をとる点がユニークである。主要団体について、その目標、成果、人材、組織原則、財政、他組織との関係、関連法、歴史などを調べて分析する。

第三に、ダイナミックな対話を志している点にも特色がある。具体的には、対話的調査の実施、成果をホームページから日仏英語で世界に発信、社会セクター当事者と協力して日仏国際セミナーを日本で開催、などを計画している。

4. 将来的に期待される効果や応用分野

政府と市場と家族の三角形(いわゆる福祉ミックス)の中央にあって媒介役を果たす「社会セクター」を育てて活かす社会システムの構想は、日本社会における家族政策の形成に役立つだけでなく、今日の閉塞状況を打開する政治・経済・社会政策諸分野へのヒントを豊富に含むものと期待される。

国際比較の枠組

(連帯経済、共済組合、アソシエーションの歴史)

フランス

社会民主主義
政府

保守主義コーポラティスト的

自由主義
市場

スウェーデン

(共同組合、国民運動、
社会権に基づく生活保障)

社会
セクター

アメリカ

(慈善事業、社会企業、
寄付を通じた再分配)

家族

保守主義家族主義的

日本 (伝統的地域組織と新しいNPO)

研究計画

前半 2011.3~2012.3

後半 2012.4~2014.3

フランスの
社会セクター
調査

CNAF, UNAF etc
2011.5, 2011.9, 2012.3

特徴的な組織へ
2012.9
2013.9

日本の
社会セクター
調査

静岡
全国展開組織

対話的調査へ

分析 発信
交流

理論的検討
発表、意見交換
ホームページ開設
(日英仏語で発信)

日仏国際セミナー
(2013.3)
世界社会学会(2014.7)
一般読者向の本

ライフ・イノベーションのため
次世代を産み育てる新しい社会システムの構想を
世界と日本に向かって発信していきます